

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日:令和2年 12月 7日

公表:令和2年12月14日

事業所名:ポカラポット梅森坂

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	4		・児童同士が適切な距離を保ちながら活動できる十分なスペースを確保しており、また活動自体にも工夫をしている。	
	2 職員の配置数は適切である	4		・個別活動、集団活動のどちらの活動にも対応できる職員配置ができています。	・適切な職員配置人数を保ってはいるが、今後も活動内容の見直し、職員と利用者が共同して活動を進められる取り組みの実施など、基準を満たす最低限の人員配置でも質の高いサービスを提供できるように努力していく。
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	1	3	・ハード面で改善は難しい部分があるが、段差などを見つけると、利用者、職員で互いに声を掛け合い注意をしている。スロープや段差など注意すべき箇所はいくつかあるが、滑りにくい工夫をしたり、口頭での注意喚起を行うなどの対応を行っている。	・注意すべき箇所を職員間で情報共有し、注意喚起するような掲示物などを視覚的にも注意を促せるような工夫をしていく。
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	3	1	・定期的に業務内容の確認を行い、進捗状況の報告をするなど、情報共有ができるように努めている。 ・事業所の状況等を報告し、各職員が改善していくための考えをもてるよう努めている。	・日々の打ち合わせなどで業務の確認や改善について話し合いを行っているが、同法人内の職員などからも助言をもらうなどし、広く参画できる仕組みを整えていきたい。
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	4		・これまでいただいた保護者からの意見等を職員間で情報共有し改善方法について話し合いをしている。改善策についても周知できるよう対応を考えていく。	・保護者等の意向等に対する改善方法等について、職員間で共有し改善への努力でとどまってしまうため、事業所の取り組みを保護者等に向けて情報を発信できる方法を整えていく。
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	4		・HPIにて公開している。	
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		4	・外部評価は行われていないが、保護者向け評価表や自己評価の結果を様々な視点からとらえ改善に努めている。	・第三者評価調査者である職員によって、第三者評価の視点からフィードバックしてもらっているが、その体制を明確なものとして整えていく。
8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	3	1	・研修に参加できるよう職員体制を整えるなどの、研修の機会の確保に努めている。 ・法人内の合同MTなどが、職員の学ぶ機会となるよう努力している。 ・各職員が自発的に研修に参加している。	・全職員が外部研修へ積極的に参加が出来る体制を整える ・初任者～管理職までの、研修プログラムを作成していきたい	

適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	4		<ul style="list-style-type: none"> ・日々の活動記録や本人、ご家族の意向を反映するサービス等利用計画を作成している ・サービス等利用計画とも照らし合わせて作成している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アセスメントシートの更新を定期的に行うなど、ニーズや課題の変化について丁寧に把握するように努力している。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	4		<ul style="list-style-type: none"> ・「子どもの未来をひらく182の社会スキル」というテキストを使用し把握に努めている。 ・Vineland-II、LDI-Rを備えており、希望される方に実施している 	<ul style="list-style-type: none"> ・Vineland-II、LDI-Rを備えていることを周知し、希望される方に実施できるようにしていく。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	4		<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の希望を活動内容に反映できるよう工夫をしている。 ・活動案を元に各職員が意見を出し合える環境を整え活動計画を立てている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・専門的な知識をより多く取り入れられるよう、研修などにも参加し学ぶ機会を設けていきたい。 ・事業所内に限らず、同法人内の職員にも意見をもらい、立案に広く参加できる仕組みを整えていきたい。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	4		<ul style="list-style-type: none"> ・利用者のニーズに合わせて柔軟に対応している。様々な情報を収集し利用者の特性を考慮しながら、活動が固定されないよう工夫をしている。 ・必要に応じて利用者によっては固定のプログラムを組みながら、利用者のニーズや状況に応じて発展させていくよう工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者からのニーズを引き出し活動に反映できるよう整えていく。 ・幅広く職員から意見をもらい、活動の幅を広げ多角的な支援が行えるよう工夫をしていく。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	4		<ul style="list-style-type: none"> ・活動時間に応じて、利用者の特性、季節、天候等を考慮し、課題を決めて支援している。 ・平日の支援、休日や長期休暇の支援でそれぞれに課題を設定しているが、それぞれを組み合わせて継続的な支援もできるように工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の課題は支援計画にて目標を設定している。個々の課題を上手く組み合わせることで集団としての支援も行えるように努めている。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	4		<ul style="list-style-type: none"> ・利用者によって個別活動や集団活動での課題を明確にし支援計画を作成している。 ・利用者の課題に応じ、支援計画に沿った集団活動ができるように工夫をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・集団活動の中で個々の課題が明確になり効果的な支援が行えるよう、職員間で情報共有をし適切な支援が行えるように努めている。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	4		<ul style="list-style-type: none"> ・事前の打ち合わせで、明確な担当分け、活動の詳細な打ち合わせとシュミレーションを行い、職員が連携して支援を行えるよう工夫している。 	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	1	3		<ul style="list-style-type: none"> ・各職員が各々記録の確認を行い、それを元に翌日振り返り等を行っている。
17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	4		<ul style="list-style-type: none"> ・支援計画に沿った支援が行われているかを振り返り、これまでの支援の効果と照らし合わせて記録するようにしている。 ・各職員が記録をチェックし、追加や修正を行うようにしている。 		

18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	4	<ul style="list-style-type: none"> ・記録や日々の活動の振り返りを通してモニタリングを行い、支援計画の見直しをしている。 ・個別のスケジュールシート等の見直しも行き、支援計画の見直しに反映できるようにしている。 	
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	4	<ul style="list-style-type: none"> ・「社会性」「コミュニケーション」「社会スキルの習得」に焦点を当てた支援を柱としながら、個々のニーズや課題に応じて組み合わせ合わせて支援をしている。 	

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	4		・必要に応じて担当者会議開催の呼びかけをしている。	・サービス担当者会議の依頼があまりないが、出席の依頼があれば適任者が参加している。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	4		・送迎時に利用者の様子を確認するなどして適切な支援が行えるよう情報共有を行っている。 ・送迎の調整を学校へ依頼する際は、電話連絡をするなど適切に行っている。	・学校の送迎時のやりとりや、ケースの打ち合わせなどに出席するなど、今後とも連携に力を入れていきたい。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	4		・酸素吸入を必要としている児に対しては、予測されるケースを把握し、家庭と密に連携をとっている。	・該当ケースはないが、そのようなケースが発生した場合には連携していく。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	1	3		・利用者が小学校高学年、中高生であるため機会がない。成育歴等は必ずチェックしている。 ・必要なケースが発生した場合は、情報を共有するなどの体制を整えていく。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	1	3		・現時点では該当ケースがなく、実績もない。 ・今後は移行していくケースも増えていくと予想される。将来(就労や自立的生活など)にどうつなげていくかを考えた支援、また特性など利用者の情報を丁寧にアセスメントし提供できるよう整備していく必要がある。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	1	3		・日本LD学会に所属している職員が研修に参加するなどし、最新の知見を得られるよう努めている。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	1	3	・地域の公園での活動や避難訓練などの活動を通して地域や社会の人との関わりを持てる機会を多く設けている。	・「障がいのない子ども」と活動する機会を積極的に設定はしていないが、地域の公園での活動など社会参加活動を多く設けることで一定の関わりが持てるように努力していく。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	3	1	・参加できるよう職員体制を整えるようにしている。 ・協議会等で得た情報については職員間で共有するようにしている。	・日程の調整を行い、今後も積極的に参加するようしていく。 ・協議会等の内容によって参加する職員を変えるなど、幅広く参加できるようにしていく。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	4		・日々の送迎時に活動を報告すると同時に、利用者の課題や今後の支援についても共有するよう努めている。	・現状で満足することなく、送迎時や面談、電話などあらゆる手段を活用し、利用者の発達や課題の共有や支援の方向性について保護者と活発な意見交換ができるよう信頼関係を築いていく。
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	1	3		・今年度に関しては新型コロナウイルス感染予防の観点から積極的な取り組みは行われていない。今後はどのような形で行えるかを話し合い取り組めるよう努める。 ・プログラムとしては実施していない。CSPのトレーナー資格は持っている職員がいるため、CSPの考え方などに基づいた助言は引き続き行っていきたい。	

保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	4		・契約時に丁寧に行っている。	・変更があった際は、資料を提示してより丁寧な説明を行えるようにする。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	4			・送迎や面談時に行っている。 ・保護者からの相談があれば、保護者の了解のもと、職員や関係機関等と情報共有し、必要な支援を適宜行い、経過も共有している。 ・思春期の利用者も多い事業所であることから、職員側から働きかけていく必要性も感じている。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	1	3		・今年度に関しては新型コロナウイルス感染予防の観点から保護者同士が交流できる場を提供することは難しかった。来年度以降については、感染予防をしながらどのような形で提供できるかを考え提供できるように努めていく。 ・父母の会が存在しないので、直接的な支援は出来ていないが、保護者が参加できる企画をするなど、保護者同士が交流できる場を設けていきたい。 ・子どもたちが活躍できる場兼保護者同士が交流できるような場の提供が出来るように工夫する。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	4		・苦情があった際は、職員間で共有し対策を考えて報告書を作成し苦情に対応できるようにしている。	・契約時の重要事項説明書の説明の際に苦情対応についての説明をしているが、変更があった場合や年度替わりには改めて説明するように努める。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	1	3	・インスタグラムを活用して活動の様子を発信するようにしている。	・定期的に活動報告を行える体制を整え取り組んでいく。 ・インスタグラムの更新が定期的に行えるよう努めていく。 ・活動の様子を撮った写真を定期的に渡すなど、より具体的な方法で発信できるようにしていく。 ・引き続き、行事予定表を作成し配布していく。
	35	個人情報に十分注意している	4		・個人情報の取り扱いに関することについては必ず書面にて同意を得ている。 ・個人情報を取り扱う際は、書面の確認を行い十分に注意して扱っている。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	4		・利用者に対しては、それぞれの特性に合わせた伝達方法を職員間や保護者と共に情報共有し確認している。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	1	3		・今年度に関しては新型コロナウイルス感染予防の観点から行事を開催することが出来なかった。来年度以降については、感染予防をしながらどのような形で開催できるかを考え、より地域の方々が参加できる行事を開催できるように努めていく。 ・定期的にイベントを行うことで、地域の方々にも足を運んでもらえるように取り組みを考えていく。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	2	2	・整備してある各マニュアル(連絡体制を含む)に関しては、すぐに確認できるように掲示している。	・定期的に各マニュアルを見直し、変更があった場合や年度替わりには改めて各マニュアルを周知していく。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	4		・月1回の訓練実施が市で義務付けられているため、避難訓練や通報訓練、非常食の勉強、避難場所や避難経路の確認、防災センターの見学や体験などで子どもと共に学ぶ活動を取り入れている。	・非常災害だけではなく、不審者対応や防犯など情勢の応じた勉強会や訓練を行う必要性を感じている。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	3	1	・定期的に自己確認を行い常に意識して支援にあたるように努めている。	・社内研修を行う以外にも、外部の研修に参加できるよう体制を整える。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	3	1		・これまでにケースはなかったが、今後このようなやむを得ないケースが生じた場合は、決まりに基づいた行動をとる。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	4		・アセスメントで聞き取りを行い、アレルギーのあるものを使用しない、代替品を用意するなどの対応をしている。	・アセスメントでの聞き取りのほか、変更がないかの確認を行うようにしている。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	4		・事例集には、事例が起きたときの状況と今後の対応について記載するようにしている。	・情報共有だけにとどまらず、事例検討を適宜行うように努めていく。